

担当講座	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	問合せ先	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座
分野責任者	耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 教授	連絡先	内線 6302
担当教員	池田 怜吉 准教授 片桐 克則 准教授 小林 有美子 講師（臨床遺伝学科）		
人材育成の 基本理念	耳鼻咽喉科学領域の基礎あるいは臨床研究能力を備えた地域医療に貢献できる医療人を育成する。		
主な研究内容	耳鼻咽喉科疾患の病態・治療についての研究を行う。		
教育成果 （アウトカム）	教育成果		該当するディプロマポリシー
	耳鼻咽喉科で取扱う領域（聴器、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭、頸部）の臨床局所解剖と生理機能ならびに本領域の主要疾患に関する知識を整理して、疾患の病態解明や治療成績の向上に繋がる基礎研究、臨床研究の方法、手技を会得する作業を通じ、臨床の場で生じた疑問点を自ら解決し、地域医療の向上に参画できる質の高い耳鼻咽喉科専門医の基盤が形成される。英語での口頭発表、論文投稿を経験することで、自らの新知見を国際的に紹介し、討議する能力が形成される。		1、2、3、4、5、6、7、8
到達目標	到達目標		対象科目
	(1)生命科学や、医学研究のための基本的な知識を活用できる。		ベーシックセミナー
	(2)適切な研究デザイン、解析法を立案し実施できる。		研究方法論
	(3)得られた研究結果を正しく解釈できる。		特別研究ⅠⅡⅢ
	(4)解析結果ををまとめ、発表できる（英文が望ましい）。		特別研究ⅠⅡⅢ
	(5)病因の解明や治療法の発展に寄与できる。		特別研究ⅠⅡⅢ
	(6) 次世代の人材育成に貢献できる。		特別研究ⅠⅡⅢ、大学院セミナー
	(7)聴力障害の病態生理を理解し、障害の責任病巣を診断でき、保存的あるいは外科的治療方針が立てられる。		耳鼻咽喉科症例検討会、耳鼻咽喉科画像診断、耳科学Ⅰ・Ⅱ、聴覚医学
	(8)平衡覚の病態生理を理解し、めまいの診断・治療ができる。		耳鼻咽喉科症例検討会、耳鼻咽喉科画像診断、耳科学Ⅰ・Ⅱ、聴覚医学
	(9)鼻閉・鼻汁をきたす病態を理解し、保存的あるいは外科的な治療を行うことができる。		耳鼻咽喉科症例検討会、耳鼻咽喉科画像診断、鼻・咽頭・喉頭手術
	(10)咽頭・喉頭の炎症性疾患を的確に診断し、保存的あるいは外科的に治療することができる。		耳鼻咽喉科症例検討会、耳鼻咽喉科画像診断、鼻・咽頭・喉頭手術
	(11)嚥声をきたす喉頭良性疾患を的確に診断し、保存的あるいは外科的に治療することができる。		耳鼻咽喉科症例検討会、耳鼻咽喉科画像診断、頭頸部外科学Ⅰ・Ⅱ
	(12)頭頸部悪性腫瘍を診断することができ、的確な検査を行い、治療計画を立てることができる。		耳鼻咽喉科症例検討会、耳鼻咽喉科画像診断、頭頸部外科学Ⅰ・Ⅱ
	(13)頭頸部領域の基礎的な画像診断ができる。		頭頸部外科学Ⅰ・Ⅱ
	(14)症例報告・研究の成果を国内外の学会で発表することができる。		耳科学Ⅰ・Ⅱ、頭頸部外科学Ⅰ、鼻・咽頭・喉頭手術、聴覚医学
	(15)研究の成果を国内外の雑誌に投稿することができる。		耳科学Ⅰ・Ⅱ、頭頸部外科学Ⅰ、聴覚医学
資格取得等	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医、騒音性難聴担当医。		
履修に関する 情報	社会人大学院生に関しては勤務の都合で日程・時間等調整する。入学時より前半の2年間の間に共通教育科目の必修科目「研究方法論」に加えて、選択必修科目を履修することが望ましい。（問合せ先：耳鼻咽喉科学講座・内線 6302）		

●在学中に履修できるカリキュラム

区分		配当年次	科目名		開講	コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
研究 特 論	選 択 必 修	1～4年	講義	耳鼻咽喉科症例検討会	通年	30	4	20単位	※20単位以上の取得可
			講義	耳鼻咽喉科画像診断	通年	30	4		
			実習	耳科学Ⅰ	通年	60	4		
			実習	耳科学Ⅱ	通年	60	4		
			実習	頭頸部外科学Ⅰ	通年	60	4		
			実習	鼻・咽頭・喉頭手術	通年	60	4		
			実習	聴覚医学	前期	30	2		
			実習	頭頸部外科学Ⅱ	後期	30	2		
特別 研究	必修	2年		特別研究Ⅰ（初期審査）	通年	8	1	4単位	※2021年度以降入学者 対象科目
		3年		特別研究Ⅱ（中間審査）	通年	8	1		
		4年		特別研究Ⅲ（論文作成）	通年	15	2		

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

コード	MD15181010					MD15181020					MD15181030					MD15181040				
科目	耳鼻咽喉科症例検討会					耳鼻咽喉科画像診断					耳科学 1					耳科学 2				
科目責任者	志賀清人					志賀清人					池田怜吉					池田怜吉				
担当者	志賀清人					志賀清人					池田怜吉					池田怜吉				
会場	矢巾附属病院カンファランスルーム					矢巾附属病院カンファランスルーム					中央手術室					中央手術室				
区分等	区分	講義	単位	4		区分	講義	単位	4		区分	実習	単位	4		区分	実習	単位	4	
	回数	通年30コマ	配当年次	1～4		回数	通年30コマ	配当年次	1～4		回数	通年60コマ	配当年次	1～4		回数	通年60コマ	配当年次	1～4	
主な授業内容	実際の症例を通じて個々の疾患を学ぶ					実際の画像を供覧し読影の基礎を学ぶ					人工聴覚器手術（人工内耳、人工中耳、骨導インプラント）の助手を務める					側頭骨外科・鼓室形成術の助手を務める				
教育成果	耳鼻咽喉科・頭頸部外科について学び耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患の病態と診断が理解できるようになる。					耳鼻咽喉科・頭頸部外科について学び耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患の画像の病的所見の特徴を学び診断や術式の選択が理解できるようになる。					人工内耳、人工中耳、骨導インプラントなどの人工聴覚器の構造、原理を理解し、各インプラントの適応となる病態と手術適応、および手術手技を理解できるようになる。					慢性中耳炎、中耳新樹種、耳硬化症、中耳・外耳奇形の病態と診断・治療が理解できるようになる。また、顔面神経減荷術や内リンパ囊開放術の適応疾患と手術手技が理解できるようになる。				
コピー添番号/達成度	コピー添1	コピー添2	コピー添3	コピー添4	コピー添5	コピー添1	コピー添2	コピー添3	コピー添4	コピー添5	コピー添1	コピー添2	コピー添3	コピー添4	コピー添5	コピー添1	コピー添2	コピー添3	コピー添4	コピー添5
	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	コピー添6	コピー添7	コピー添8			コピー添6	コピー添7	コピー添8			コピー添6	コピー添7	コピー添8			コピー添6	コピー添7	コピー添8		
	C	C	C			B	B	B			C	C	C			C	C	C		
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。										各講義に対する事前事後学修は1時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。									
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書	今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版 医学書院					今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版 医学書院														

コード	MD15181050					MD15181060					MD15181070					MD15181080				
科目	頭頸部外科学 1					鼻・咽頭・喉頭手術					聴覚医学					頭頸部外科学 2				
科目責任者	志賀清人					池田怜吉					小林有美子					志賀清人				
担当者	志賀清人					池田怜吉					小林有美子					志賀清人				
会場	中央手術室					中央手術室					耳鼻科外来					頭頸部外科外来				
区分等	区分	実習	単位	4		区分	実習	単位	4		区分	実習	単位	2		区分	実習	単位	2	
	回数	通年60コマ	配当年次	1～4		回数	通年60コマ	配当年次	1～4		回数	前期30コマ	配当年次	1～4		回数	後期30コマ	配当年次	1～4	
主な授業内容	頭頸部外科手術の助手を務める					手術助手あるいは術者を務める					小児の先天性難聴の診断・治療・聴覚リハビリ					頭頸部癌の診断				
教育成果	耳鼻咽喉科・頭頸部外科について学び耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の悪性腫瘍の病態と診断が理解できるようになる。					鼻・咽頭・喉頭について学び耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患の病態と診断が理解できるようになる。					小児の先天性、後天性難聴の原因、病態について学び小児難聴の診断と聴覚リハビリが理解できるようになる。					耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の悪性腫瘍について学び頭頸部癌の診断が理解できるようになる。				
コピレックス番号/達成度	コピレックス1	コピレックス2	コピレックス3	コピレックス4	コピレックス5	コピレックス1	コピレックス2	コピレックス3	コピレックス4	コピレックス5	コピレックス1	コピレックス2	コピレックス3	コピレックス4	コピレックス5	コピレックス1	コピレックス2	コピレックス3	コピレックス4	コピレックス5
	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B
	コピレックス6	コピレックス7	コピレックス8			コピレックス6	コピレックス7	コピレックス8			コピレックス6	コピレックス7	コピレックス8			コピレックス6	コピレックス7	コピレックス8		
	C	C	C			B	B	B			C	C	C			B	B	B		
特記事項	各講義に対する事前事後学修は1時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書	今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版 医学書院					今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版 医学書院					聴覚検査の実際 改訂4版 南山堂					今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版 医学書院				

●各科目の授業計画

耳鼻咽喉科学

コード	MD15189010					MD15189020					MD15189030									
科目	特別研究Ⅰ					特別研究Ⅱ					特別研究Ⅲ									
科目責任者	各（正）指導教員					各（正）指導教員					各（正）指導教員									
担当者	各指導教員					各指導教員					各指導教員									
会場	各指導教員と相談の上決定					各指導教員と相談の上決定					各指導教員と相談の上決定									
区分等	区分	演習	単位	1	区分	演習	単位	1	区分	演習	単位	2								
	回数	通年8コマ	配当年次	2	回数	通年8コマ	配当年次	3	回数	通年15コマ	配当年次	4								
主な授業内容	・生命科学や研究手法の基礎的な知識 ・研究計画調書の作成 ・初期審査の準備					・生命科学や研究手法の専門的な知識 ・中間審査の準備					・生命科学や研究手法の発展的な知識 ・論文作成 ・最終試験の準備									
教育成果	生命科学や研究手法の基礎的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 ＜初期審査＞ 2年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書等に基づき、研究の概要について口答で説明し、その妥当性について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。					生命科学や研究手法の専門的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 ＜中間審査＞ 3年次末までに実施。 研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書に基づき、研究の概要及び進捗状況について口答で説明し、現在に至るまでの過程及び初期審査時の目標の達成度等について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。					生命科学や研究手法の発展的な知識を身につける。最終試験に向けて、情報を適切に分析し、論旨を展開できる。 ＜論文作成＞ 学位申請までに実施。 論文作成に向けたデータ収集や解釈、図譜の作成や記載ができ、論文を作成できる。									
コンビ・テンス番号/達成度	コンビ・テンス1 C	コンビ・テンス2 C	コンビ・テンス3 C	コンビ・テンス4 C	コンビ・テンス5 C	コンビ・テンス1 B	コンビ・テンス2 B	コンビ・テンス3 B	コンビ・テンス4 B	コンビ・テンス5 B	コンビ・テンス1 A	コンビ・テンス2 A	コンビ・テンス3 A	コンビ・テンス4 A	コンビ・テンス5 A					
	コンビ・テンス6 C	コンビ・テンス7 C	コンビ・テンス8 C			コンビ・テンス6 B	コンビ・テンス7 B	コンビ・テンス8 B			コンビ・テンス6 A	コンビ・テンス7 A	コンビ・テンス8 A							
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 初期審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。					各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 中間審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。					各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 最終試験の詳細は、「最終試験の手引き」を参照。									
評価方法	「受講票」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

●時間割

耳鼻咽喉科学

【前期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20			鼻・咽頭・喉頭手術	耳科学 1	頭頸部外科学1	共通教育科目
2 限	10：30～12：00			鼻・咽頭・喉頭手術	耳科学 1	頭頸部外科学1	
3 限	13：00～14：30			聴覚医学	耳科学 2	頭頸部外科学1	
4 限	14：40～16：10			聴覚医学	耳科学 2	頭頸部外科学1	
5 限	18：00～19：30		耳鼻咽喉科症例検討会			頭頸部外科学1	
6 限	19：40～21：10		耳鼻咽喉科画像診断	特別研究Ⅰ～Ⅲ			
【後期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20		頭頸部外科学1	鼻・咽頭・喉頭手術	耳科学 1		共通教育科目
2 限	10：30～12：00		頭頸部外科学1	鼻・咽頭・喉頭手術	耳科学 1		
3 限	13：00～14：30				耳科学 2	頭頸部外科学2	
4 限	14：40～16：10				耳科学 2	頭頸部外科学2	
5 限	18：00～19：30		耳鼻咽喉科症例検討会			頭頸部外科学2	
6 限	19：40～21：10		耳鼻咽喉科画像診断	特別研究Ⅰ～Ⅲ			

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						

【後期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						